# 第１回北秋田地域医療構想調整会議　議事要旨

１　日　時　　令和７年７月２２日（火）　午後６時から午後８時まで
２　場　所　　オンライン会議
３　出席委員　委員１２名中１１名出席（代理出席者を含む）

| 氏　名 | 役　職　等 | 氏　名 | 役　職　等 |
|---|---|---|---|
| 野　口　博　生 | 大館北秋田医師会副会長 | 菅　原　裕　宏 | 全国健康保険協会秋田支部企画総務部長 |
| 小　林　真 | 小林眼科医院長（有床診療所代表） | 田　中　敬　午 | 特別養護老人ホーム青山荘施設長 |
| 相　澤　俊　朗 | 北秋田市民病院長 | 森　山　祐　行 | 北秋田市北部地域包括支援センター管理者 |
| 森　川　公　彦 | 大館北秋田歯科医師会監事 | 畠　山　英　利 | 北秋田市健康福祉部医療健康課長 |
| 工　藤　智　子 | 秋田県薬剤師会大館北秋田支部監事 | 石　川　悦　子 | 上小阿仁村住民福祉課長 |
| 嘉　成　早　苗 | 秋田県看護協会北秋田地区副支部長 | | |

４　議事等

（１)報告事項

①令和６年度病床機能報告と病床数適正化支援事業について

②令和８年度地域医療介護総合確保基金（医療分）に係る事業提案の募集と「地域医療連携推進法人設立等支援事業」の事業実施について

③へき地医療機関への看護師等の派遣について

④かかりつけ医機能報告について

【事務局】

（資料により説明）

【北秋田市民病院長】

・4 月に病棟改変しており、今現在使用している病床は 177 床（うち 8 床が結核、感染症病床）で稼働率は 90%を超えるような状況。

・2025 年の必要病床数は 135 床とあるが、これに沿って減らすと患者を受けられなくなる。

・当院が北秋田地域唯一の一般病棟を持つ病院なので、患者をいくらでも受け入れはしていくつもりで、スタッフ一同、毎日頑張っている。

・皆さんにお願いしたことは、速やかに退院してもいい状態になったら、すぐ受け入れてもらえると非常に助かる。

（２)協議事項

①　在宅医療等の推進状況と今後の方向性ついて

【事務局】

（資料により説明）

【北秋田市民病院長】
・まず需要が増えるのは全国的な話であって、国の資料によると、北秋田の訪問の需要のピークは2025年。
・問題は需要のピークは過ぎるが、供給がそれ以上に少なくなること。
・加えて、訪問診療や施設をみているのは、医師会の先生たちがメインでやってくれているが、高齢化が始まっており、あと何年続けられるか不明。
・そうなると、病院で訪問診療等を実施するという方向性になると思うが、当院はスタッフ確保難により、この北秋田地区唯一の入院医療機関として入院医療を維持していくだけで精一杯なところがある。訪問診療等にまわせる看護師等がいない。
・需要の頭打ちではあるが、供給が追いつかない。
・もしやるとすれば、ICT等を利用して、病院から出ないでできる事業であれば、協力できるかもしれない。
・あとは夢のような話かもしれないが、使ってない病棟に、老健等の施設が入れば、訪問診療や施設での看取りの件数が増えると思う。

【大館北秋田歯科医師会監事】
・全国的にも、訪問診療を専門にやっている先生も出てきおり、この地域でも、診療を実施しているのは、若い先生なので、将来的にはそういう若い先生方が頑張ってくれると思う。

【県薬剤師会大館北秋田支部監事】
・訪問薬剤管理指導件数の減少が顕著であるというデータについて、人口減によるものか、ケアマネと薬局との連携に問題があるのか把握はできない状況。
・北秋田市で訪問薬剤管理指導を行っている薬局は3軒程度。
・もし訪問薬剤管理指導を必要としている患者がいるのであれば、見いだして、進めていきたい。

【県看護協会北秋田地区副支部長】
・訪問看護ステーションの施設数について、令和6年は3事業所に減っており、看護師数も資料の数字よりも少なくなっている。
・3事業所に減ったときに、一時的には一人当たりの負担が増えたこともあったが、事業所間で連携が取れており、棲み分けして市内をみてもらっている。
・訪問看護の利用者数は減っており、また、在宅での介護もすごく減っている印象。
・看護師や看護補助者は募集してもいない状況なので、訪問看護に関しては、北秋田市民病院や周りの状況から、スタッフの数を調整して実施している状況。

【全国健康保険協会秋田支部企画総務部長】
・協会けんぽとしては、これまで特に在宅医療に特化したデータ抽出や分析を実施してきてなかったので、必要であれば、どんどんデータ分析等を進めていきたい。

【特別養護老人ホーム施設長】
・特養施設における医療的ケアの必要な高齢者の受入れについて、痰の吸引や経管栄養が必要な方を受入れるために介護職員の研修を進め、順次体制を整えるようにして

いるが、それ以外の医療的ケアが必要な人の受け入れは、看護師を募集しても来ない状況がある中で、なかなか厳しいものがある。
・嘱託医を引き受けてくれる医師が少なく、看取りが思うようにできず、最終的には、北秋田市民病院に入院をして看取るというようなことをやってもらっている状況。
・地域の診療所がこれ以上減っていくと、他の施設でも、配置医の確保が難しくなることが想定され、看取りをどのようにしていくか難しい問題である。

【北秋田市北部地域包括支援センター管理者】
・地域包括支援センターでは、医療と介護、そして生活支援をつなぐ立場として、医療機関や介護事業所と連携しながら、入退院支援や、在宅療養に関する相談を日々、受けており、その相談件数は横ばいである。
・北秋田市民病院の病棟再編により、患者サポートセンターから退院支援についてスピード感を持って対応していただき、家族等を通じて、地域包括支援センターに早期に相談が繋がるようになった感覚がある。
・また、地域包括支援センターでは、早期の介護保険の新規申請代行や居宅介護支援事業所、ケアマネージャーへの、迅速なつなぎが進んで、以前に比べて、在宅介護や施設の検討がスムーズになってきたと感じる。
・以上から、情報共有や連携が、不十分なままにならないように、入院中から、関係機関、関係各種で情報共有を推進できる仕組みの構築が必要と考えている。
・キーパーソンの調整に時間を要するケースが増えているのが課題と感じている。

【北秋田市医療健康課長】
・今年度、厚生連と連携しながら、東北管内の大学や看護学校を回って、医師や看護師確保を前進できるように進めていきたいと思っている。
・当地域は、看取り対応ができる先生が少なく、住民が思っているほど、住み慣れた場所での看取りができていないのかなと思う。

【上小阿仁村住民福祉課長】
・地域包括支援センターは、スタッフが揃えられない状況になっており、村の職員体制では十分に対応できていない。
・住みなれた場所で暮らしたいという意見は最近多い一方で、独居世帯で緊急連絡先が不明の方も実際おり、その方は看取りの体制が整えられない事情がある。

【県医務薬事課長】
・北秋田市民病院長からオンライン診療についてお話があったが、どのような認識をもっているか。

【県看護協会北秋田地区副支部長】
・設備が整えば、移動の時間がなくなるので、受診される方にとってメリットだとは思うが、先生たちも忙しくどのように時間調整するのか想像がつかない。
・一方で、当院では患者が受診のために、定期で来る場合でも、待ち時間が長くなるので、そういうのも進んでいけばいいと思っている。

【北秋田市民病院長】

・診察から薬の処方まで、Ｗｅｂを使った方が協力できるかなと思うが、当院の内科医はほぼ、自治医大の義務年限の先生なので、誰が対応するかを決めるのが難しい状況。

【三浦アドバイザー】
・人が少ない、移動時間が長く、冬場はもっと困る状況で、必要な医療の提供を続けていくには、オンライン診療しかないと考えている。
・公民館や郵便局等の場所を借りて診療所のようにすることが認められたので、そういった仕組みの活用も検討できればいい。

**②年末年始の救急医療提供体制について**
【事務局】
（資料により説明）

【北秋田市医療健康課長】
・北秋田市の開業医の方達に、今年度までは夜間の診療を 6 時半から 9 時まで月 2 回実施してもらっているが、令和 8 年度から高齢化等の理由で要望があり、月 1 回にする予定。
・そういう状況なので、年末年始等についての対応も難しいと考えている。

【上小阿仁村住民福祉課長】
・村内の診療は、先生やスタッフの不足により、今は休日自体の診療ができない状態から、協力は難しいと思う。

【北秋田市民病院長】
・年末年始の救急医療については、当院で受入れるしかないと覚悟を決めている。
・今回の年末年始は幸い増員等することはなく済んだが、発熱外来の開設等の準備はしていた。

【有床診療所代表】
・当医師会では、平均年齢が上がってきていることに加え、休日のスタッフ確保が難しいという声があり、夜間当番も月 2 回から 1 回に減らしていただくことになった。
・けれども、他に協力できるところは協力したいという話もあるので、その辺は臨機応変に対応していきたい。

【県医務薬事課長】
・全国的には高齢者救急の増加が見込まれる中で、施設と医療機関の連携がますます重要になってくると考えられるが、そのことについて御意見はあるか。

【特別養護老人ホーム施設長】

・配置医の確保ができて看取りを施設で実施できる体制があれば、本当に救急が必要な場合は、北秋田市民病院にお願いし、老衰期の看取りは施設で対応が可能だが、配置医を十分に確保できない状況があり、北秋田市民病院にお願いするしかない状況。
・もし、診療所がこれ以上減るということがあると、他の施設でも、そういう事態になっていくことになる。
・診療所の先生方は、自分の患者も普段診つつ、特養の患者も空いた時間で診るということは相当な負担ではあると思うので、その辺の連携は、協力医療機関だから大丈夫と思わず、配置医の先生や北秋田市民病院ともよく話し合って、進めていきたい。

**③その他**

【北秋田市民病院長】
・当院の小児科の先生が今年で定年になるが、その次の小児科の先生の当てが全くない。
・鹿角では、常勤医が引き上げられていたが、開業の小児科医がまだいるものの、当地域は、先生が辞めると、当地域に小児科の医者がいなくなる。
・非常に頭を悩ませており、もし県でお力添えいただけるのであれば、是非とも協力いただきたい。

【三浦アドバイザー】
・年末年始の救急医療については、秋田県でどこの医療機関が開院しているか等、ラインを活用して、情報発信をしていただきたき、救急病院に患者が集中しないようにしていただければいい。
・北秋田地域だけの医療完結は難しい状況になってきていると思うので、小児科の問題もそうだが、周辺の地域と何か連携していくことを考えていければいいと思う。